

科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

163

科学研究加速

現在の人工知能(AI)技術の中核は、大規模な過去の事例から規則性を見いだすことで、分類、異常検知、予測、変換などを可能にする機械学習である。応用がさまざまな分野に広がったが、対象の挙動変化、希少事例など、過去の事例を大量に集めてもカバーしきれないケースで問題が生じる。人の行動など、プライベートな面から扱いにくいケースもある。

帰納型、シミュレーションは演繹型なので、相互に補完し合う関係になる。

社会現象分析

この融合が進んだ注目の分野は、まず材料開発、創薬、気象予測などの科学研究である。機械学習との融合によって、科学的原理に基づき挙動の多様かつ精緻な模擬の実行時間短縮・調整容易化が可能

社会現象の模擬は本質的に難しい。しかし、それに迫るべく、人の振る舞いやインタラクティブなシミュレーション融合は、社会問題対策、ビジネス、科学研究などの組み合わせなど、より高度なエージェントの実

AI・シミュレーション融合



科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センター 福島俊一
フェロー(システム・情報科学技術ユニット)

東京大学理学部物理学科卒、NECにて自然言語処理・情報検索の研究開発に従事後、2016年から現職。工学博士。11-13年東大大学院情報理工学研究所客員教授、情報処理学会フェロー。

